

47. アユの追加放流効果

福島県内水面水産試験場 調査部
平成12～14年度 事業報告書
分類コード 19-08-18590000

部門名 水産業－内水面（増養殖）－種苗放流、アユ
担当者 廣瀬 充・渋谷武久・成田 薫

I 新技術の解説

1 要旨

近年の冷水病等によるアユ遊漁の不振対策の一つとして、漁期中に成魚を追加放流することにより、釣獲を向上させるための技術の有効性を検討することを目的とした。この調査では、追加放流後のアユの移動、釣獲状況の推移について把握し、追加放流による効果を検討した。

田島町を流れる桧沢川（7月9日解禁）において、アユ釣り解禁の19日後となる7月28日に標識したアユ2,400尾を追加放流した。その一週間後に刺し網により採捕した追加放流魚18尾のうち15尾が放流地点付近で採捕されており、短期間では大きな移動をしないことが明らかになった。

同じ調査における単位時間当たりの釣獲尾数（CPUE）は、追加放流を行った翌週には1.2尾/時と、2週前と変化はなかったが、釣獲尾数のおよそ7割を追加放流魚が占めていた。

また、福島市を流れる摺上川（7月1日解禁）では7月24日に約3,000尾のアユを追加放流した。その結果、放流翌日のCPUEは1.6尾/時と、放流前日の0.8尾/時の2倍の値を示し、追加放流の効果によるものと思われるCPUEの向上が認められた。また、追加放流の13日後にはCPUEが追加放流前の値に低下しており、追加放流魚は比較的短期間で釣獲されるものと思われる。

2 期待される効果

冷水病や出水等によりアユの生息密度が減少した際の対策として追加放流を行うことで、釣獲の向上とそれに伴う遊漁者の増加が期待される。

3 適用範囲

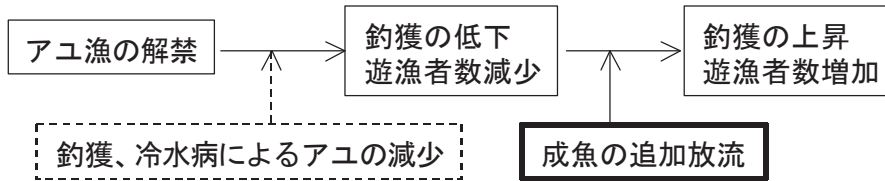
アユを漁業権対象魚種とする内水面漁業協同組合

4 普及上の留意点

追加放流したアユは大きな移動をしないこと、短期間で釣獲されることを意識して実施することが望ましい。

II 具体的データ等

1. 調査目的のイメージ



2. 調査結果の概要

(1) 放流後の移動(図1)

- ・追加放流の7日後、28日後、53日後に刺し網によりアユを採捕した。
- ・7日後の調査では採捕した追加放流魚のほとんどが、追加放流をした800~1,200mの地点での採捕となった。

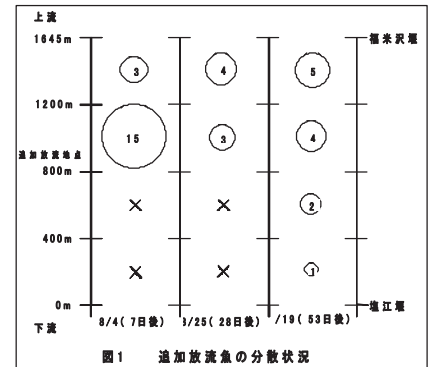


図1 追加放流魚の分散状況

追加放流したアユは短期間では大きな移動をしない。

(2) 釣獲状況

〈H12 桧沢川での結果、図2〉

- ・追加放流を行った翌週には1.2尾/時と、2週前と変化はなかったが、釣獲尾数のおよ7割を追加放流魚が占めており、追加放流による効果が認められた。

〈H14 摺上川での結果、図3〉

- ・追加放流(7月24日)の前後でCPUEは2倍に上昇した。

追加放流による釣獲の向上が確認された。

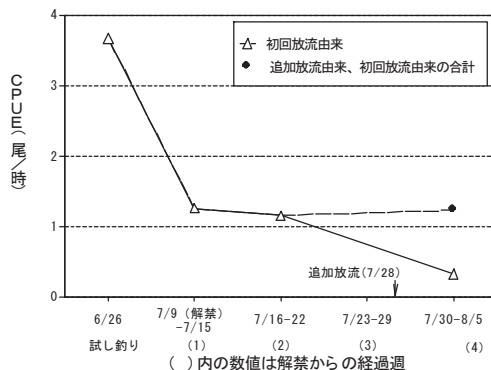


図2 友釣りによるCPUEの推移(H12 桧沢川)

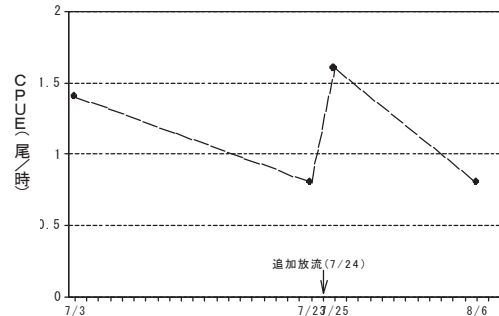


図3 友釣りによるCPUEの推移(H14 摺上川)

III その他

- 1 執筆者 : 廣瀬 充
- 2 その他の資料等 : なし